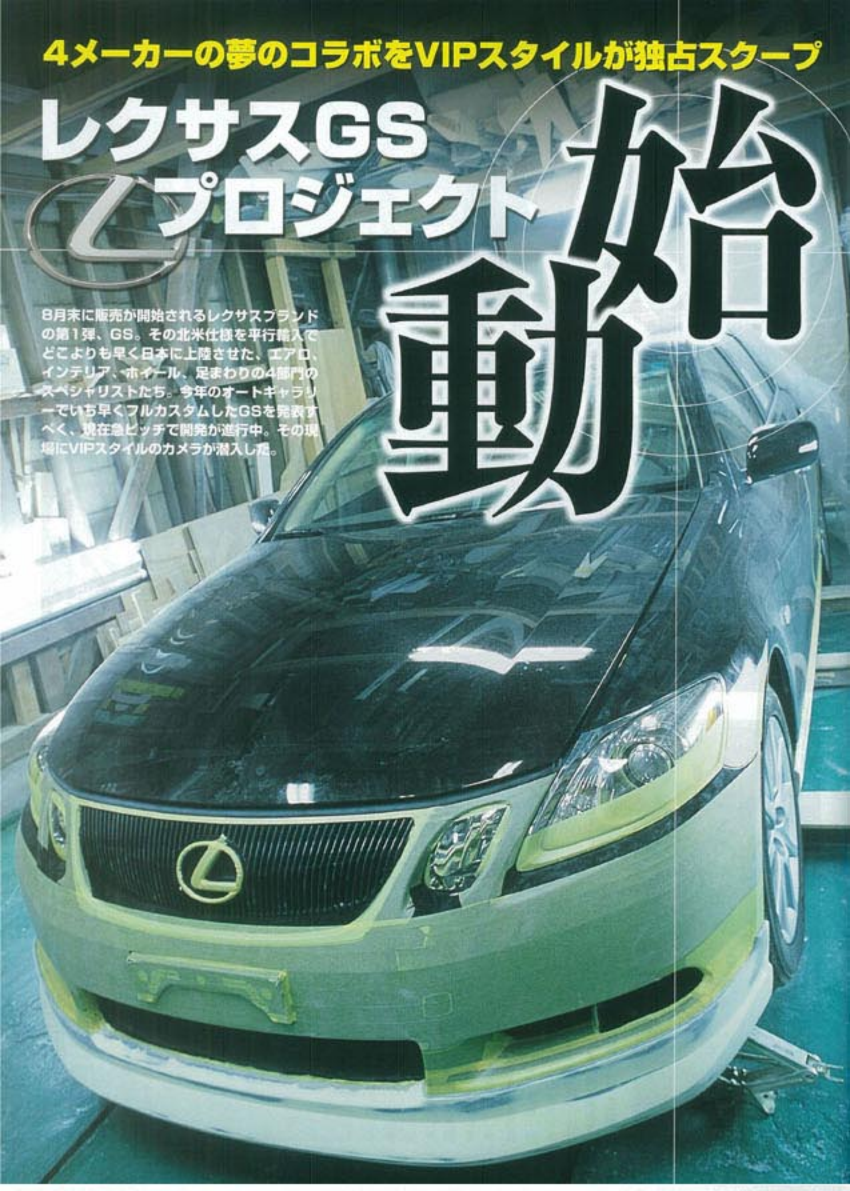
4メーカーの夢のコラボをVIPスタイルが独占スクープ

# レクサスGSプロジェクト始動



8月末に販売が開始されるレクサスブランドの第1弾、GS。その北米仕様を平行輸入でどこよりも早く日本に上陸させた、エアロ、インテリア、ホイール、足まわりの4部門のスペシャリストたち。今年のオートギャラリーでいち早くフルカスタムしたGSを発表すべく、現在急ピッチで開発が進行中。その現場にVIPスタイルのカメラが潜入した。

## それぞれのエキスパートがレクサスGSを迎え撃つ

RAYS
乱人
RANDO
GS 430
ELEVEN INTERNATIONAL
tanabe

エアロテックジャパン
代表取締役　吉川 寛志

クルマが趣味と言い切る吉川サンは、今回のプロジェクトの中心人物でもある。現在はW210のワゴンに乗っており「休みの日は足まわりをバラしたり、色んなところをいじったりしています。趣味と仕事がほぼ同じですね」。ただしドライブはあまりしない根っからのドレスアップ好き。GSに対しては「かなりアフターを意識している」と読み、その挑戦に真っ向から挑んでいく構え。

## 東京オートギャラリー出展に向けコラボレート企画が立ち上がった

**◆まず、このプロジェクトが立ち上がった時期や経緯を教えて下さい。**

**吉川**　最初に堀家サンのところがＧＳを北米から入れるというのを聞いて、それならエアロの型取りをさせてくれ、って冗談で言ってたんです。

**堀家**　そう、それでウチのシートカバーの型取りを今まで乱人サンにお借りしたクルマでやらせて頂いてたので、それは別に構いませんよと。

**吉川**　それならばまだどこもやってない事だし、どうせならフルカスタムしたら面白いだろう。時期的にも8月の東京オートギャラリーに出せるだろう、と言うことで、今まで協賛して頂いていたメーカーさんに声をかけさせて頂き、始めたんですね。

**一山**　そのお話しを頂いて僕らレイズとしても凄くラッキーだなあ、って思いました。日本でまだ発売されてないクルマだし、レクサス第1弾ということで、凄くインパクトがあるじゃないですか。これは良い話だと思い、参加させて頂いたんです。

**吉川**　過去にも協賛というカタチで4メーカー内でやっていました。でも今回はメールやファックスのやり取りも凄く多いし、デザイン画を受け渡したりと、かなり密に同じ方向で同じクルマを作っている。そうした流れは今回が初めてですね。

イレブンインターナショナル
営業　堀家 良仁

今回のプロジェクト発足のきっかけを作ったのがイレブンインターナショナル。と言うのもここが平行輸入でGSを導入したからだ。インテリアメイクを得意とする同社の堀家サンは「まだ写真でノーマルのGSしか見られない今、それをドレスアップするとこんな感じになるんだ、って言うのを感じてもらえたら良いですね」と語る。現在フロアマットの開発も密かに計画中だ。

**◆なるほど。ではみなさんのGSに対する第一印象をお聞かせ下さい。**

**楠田**　欲しいです（笑）。本当にカッコ良いと思いました。雑誌では見てましたが、写真では解らない三次元的な凝ったボディラインでスポーティだなと思います。

**一山**　僕はそれとエレガントさもあるなって感じましたね。ＬＳなんかにはないだろう軽快感みたいなものも出ています。サイドのえぐったようなラインやフロントフェイスは、アリストを感じさせながら洗練させた感じ。でも、リアドアとか凄く小さいので、乗車用って言うより2シーター的な感じもしますね。

**堀家**　あまり大きくは見えなかったですね。意外と普通か、みたいな。逆に室内に入るとなんて大きなクルマなんだろうって感じましたね。それに良く見ていくうちに、凄く凝った作りなのもわかりました。アリストよりもセルシオに近い雰囲気ですよね、内装は。スポーティより高級系で、運転した感じもそうですね。

**吉川**　僕もそう。これがレクサスか、みたいな驚きは正直なかったです。ビッグトヨタな感じ。ただ随所に凄くアフターメーカーを意識しているようなデザインがあるかな、と。ウイングとかドアのメッキとか。あとは外車に付いてたような機能もしっかりカバーしてますよね。

**堀家**　そうですね。シートにはヒーターとクーラー、両方付いてるし、シフト周辺を照らすＬＥＤの照明とかもありますし。

**一山**　メーターの基盤も凄くカッコ良い。メタルな素材で今までにないでしょう。あれは良いですね。

**◆では、そのGSなんですが、それぞれが受け持ちのパートをどういう風にメイクしていくのでしょう。**

**吉川**　ＧＳって見てもらえればわかるんですけど普通にカッコ良い。高級感も十分。でも『オレのクルマは他のとは違うんや』っていうところで乗って欲しい。だから高級感は損なわずしてイカツさ、威圧感を出し、そして走れる。それで今回は乱人スタイルのハーフで出します。ＧＳをＧＳではなくしてしまうのではなく、それを生かして高める方向ですね。

**楠田**　僕らは足まわりなので見えないところになるんですけど、エアサス設定はなく、スプリングなんで結構色々出来そうかなって思います。まずはダウンサス。18クラウンと基本は同じ構造なんですが、タイヤサイズも違うので、若干バネもダンピングレートも高い感じ。その辺りを解析してダウンサスを作ります。それからギャラリーに間に合うかどうか解りませんが（笑）、エアコブラですね。この手の高級車には最適な足だと思いますので、何とかイケると良いんですが…（笑）。

**吉川**　まあ、やって下さるでしょうね（笑）。エアコブラって構造変更なしで車検対応でしょう。走る、魅せるをハイレベルに楽しめるモノだからレクサス系には良いですよね。

**一山**　僕らはＡ／Ｘブランドの最新モデルであるＸ５０３を出します。先に出した４０１がエレガント一本なデザインだったので、スポーティでコンサバな雰囲気の5本スポークにしました。一見オーソドックスに見えますが、かなりディテールは凝ってます。今の流れは割とリムを見せないタイプが出てたと思うんですけど、５０３はリムも取れる。ＧＳって都会的だけど少しやんちゃな感

レイズ
企画部　一山 貴

実際にホイールのデザインも考案する一山サン。やはりデザイン的なものへの視線は鋭く、ヨーロッパで開かれたLフィネスというレクサスのデザインコンセプト展に興味津々。また「GSには和の雰囲気も取り入れられていると思います。例えばドアのメッキなんかは日本刀のイメージ。こういった和テイストは今後のレクサス車に上手く溶け込ませてくるでしょう」と解析。

左からレイズの一山サン、乱人の吉川サン、タナベの楠田サン、イレブンインターナショナルの堀家サン。4月から始まったこのプロジェクトの合間を縫って、多忙の身ながらそれぞれのメーカー代表として一同に会す。やはり待望のブランドと評されたレクサスには、みな強い興味と関心を抱き、想い想いに感想を語ってくれた。

じもするでしょう。そんな雰囲気に凄く似合うと思うんですよね。

**堀家**　僕らはクラッツィオRというブランドで高級車のシートカバーを展開しているんですが、このGSでも出します。純正シートの形状が結構複雑なんですが、それでもユーザーが付けられて、なおかつフィッティングも申し分ないモノを出します。それからステアリングもですね。

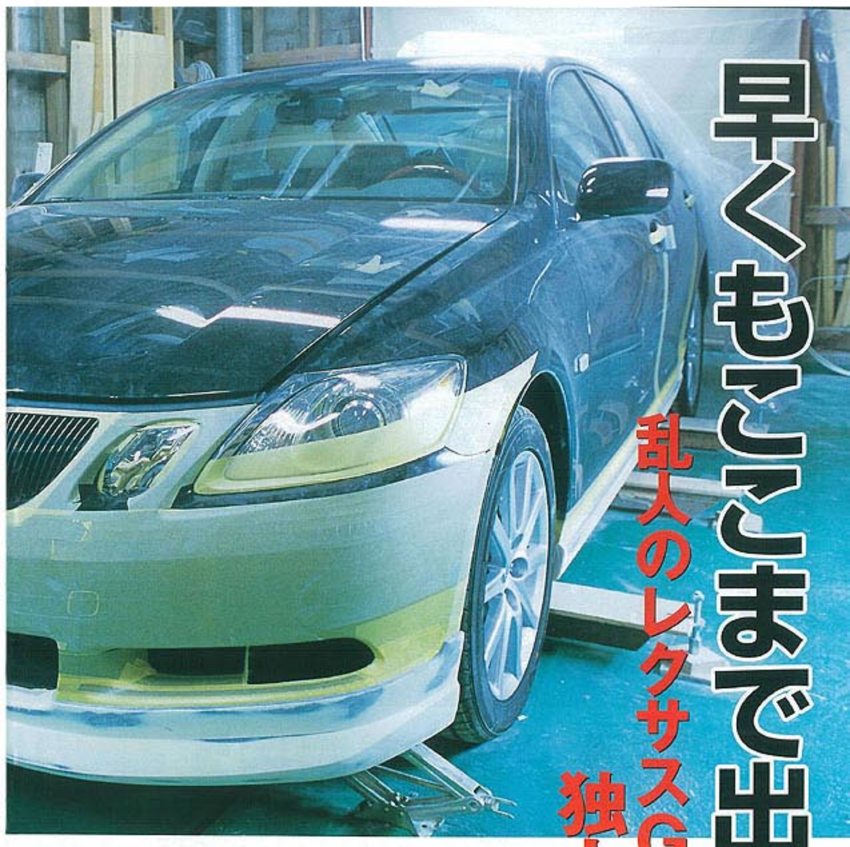
**◆では少ない時間でしたが、最後に吉川サンからオートメッセに向けて、それから読者に向けて一言。**

**吉川**　オートギャラリーでのデビューはおそらく我々が一番と思っています。まだ日本でGSが発売される前ですからね。そこで多くの方に見て頂いて、参考にしてもらったり、またGSのドレスアップの方向を示唆するものになればなあ、と思いますね。

タナベ　開発部　**楠田 啓介**

国内だけでなく自動車大国のアメリカでも、技術の実績と信頼性を得ているサスペンションメーカー、タナベ。「足まわりの構造は18クラウンと同じなので、それ用のバネをベースにレートや長さを調整し、プロトタイプを作ります。その強度をチェックしたら完成。もう間もなく出来上がると思います」と楠田サン。実は バリバリのセダンオーナーで、インスパイアが愛車。最近お子さんが誕生し、子供と一緒に遊ぶのが幸せの一時。

---



# 早くもここまで出来た!!

## 乱人のレクサスGSエアロを独占キャッチ

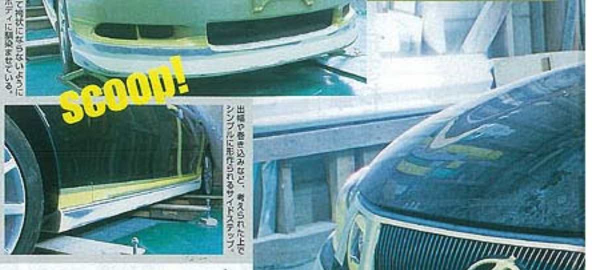
**我々は遂に乱人の心臓部とも言えるエアロ工場の潜入にも成功。そこにはマスキング状態にされたGSが。しかもバンパーにはハーフまで装着されているではないか。さらにレイズの広告撮影の現場では、もう一台のGSに遭遇。そこでは完全新作ホイールを発見したぞ。**

4月から急ピッチで進むレクサスGSプロジェクト。8月の東京オートギャラリーに向け、乱人は自社工場にてハーフエアロを着々と作り上げていた。現在はフロントのハーフスポイラーとサイドステップがマスター状態というところまで完成。

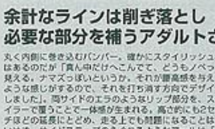
「ハーフだとデザイン出来る幅は少なく、変わり映えしないと思われがちですが、これはガラリと雰囲気が変わると思います。乱人らしい高級感とスポーティ感にあふれたデザインです。これから引き続きリアハーフ、それからウィングを製作します。期待していて下さい」と吉川サン。

一方もう一台のGSはレイズの広告撮影現場で発見。そのGSはエレガントなA/Xスタイル401の20インチを装着。重厚な高級感をパールホワイトのGSにプラス。そして目玉とも言えるA/Xブランドの新作、X503もキャッチ。こちらは北米と国内モデルの統合を計った第1弾ホイール。ちょうど同じような生い立ちのレクサスにもリンクする、期待作だ。

---



TEL.072-838-7744　http://ww.aero-teck.co.jp



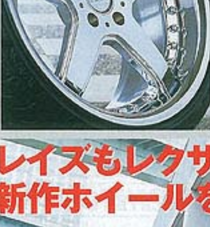
「このサイドの変わり映えは自信があります」と吉川サン。かなり苦心したそうだが、理想通りの仕上りに満足げ。

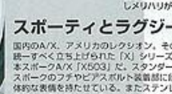
両サイドは、張り出して袴状にならないようにストンと断ち落とし、ボディに馴染ませている。

出幅や巻き込みなど、考えられた上でシンプルに形作られるサイドステップ。

### 余計なラインは削ぎ落とし必要な部分を補うアダルトさ

丸く内側に巻き込むバンパー。確かにスタイリッシュではあるのだが「真ん中だけへこんでて、どうもノペっと見える。ナマズっぽいというか。それが鈍重感を与えるような感じがするので、それを打ち消す方向でデザインしました」。両サイドのエラのようなリップ部分を、スポイラーで覆うことで一体感が生まれる。高さ的にも2センチほどの延長にとどめ、走る上でも問題になることはないはず。サイドステップのえぐれるようなアールは「ボディにはない浮いたライン。だからそれをなくし、ストレートの内巻にして違和感を払拭しました」。





スポークには名称をスリットで彫り込む。実はこのスリット、リーンフォースドリムと呼ばれる技術をデザインしたものでもあるのだ。

「純正ホイールは悪くはないが、色も含めて重たい感じ。もう少しメリハリがあると良いですね」。

### スポーティとラグジーの融合

国内のA/X、アメリカのレクシオン。その2つのブランドを統一すべく立ち上げられた「X」シリーズの第1弾が、左の5本スポークA/X「X503」だ。スタンダードなデザインだが、スポークのフチやピアスボルト装着部に段差を作る事で、立体的な表情を持たせている。またステンレスジャケットと言うリム外側に被せたクロームが、ラグジー感を高めている。

## レイズもレクサスをターゲットに新作ホイールを開発中

TEL.06-6747-1103　http://www.rayswheels.co.jp

こちらは好評のA/Xスタイル401。「このデザインで20は大き過ぎる」と言う事で、次号では新作X503の19インチを装着したGSを誌面で紹介出来そうだ。

---

## 早くもダウンサスとマフラーのプロトタイプが完成した。エアコブラの開発も始動!!

**tanabe**

TEL.072-728-6700　http://www.rd-tanabe.com

### 高級車にはうってつけの足まわり「エアコブラ」

ベースは車高調。だから純正サスよりもしっかりとした走りが可能なわけだが、それで終わらないのがエアコブラ。アッパー側にエアバッグを設けることで、車高を思いのままに調整することが出来るスグレモノなのだ。

写真は20セルシオ用のエアコブラだが、キット内容はおそらくGS用も同じになると思われる。電磁弁やリモコンも標準搭載し、車高の上げ下げを苦にしない。価格は45万円前後か!?

写真のマフラーがプロトタイプのメダリオンEXE。V8のGS430用に作ったワンオフものだが、V8らしい重低音の効いたサウンドを奏で、このまま製品として通用しそうな完成度を誇っている。

プロトタイプのダウンサスを装着した、GSのフロント足まわり。ホワイトのスプリングから察するに、究極の自社ローダウンを誇る「DF210」だと思われる。まだ日本で発売されていないGSが、早くもローダウンされているのだから驚く。製品版の完成が待ち遠しい。

足まわりでは世界でも指折りの実績と信頼性を誇るタナベ。そのタナベがプロジェクトで受け持つパートはもちろんサスペンション。まずはGS用のプロトタイプとなるダウンサスの装着状態をキャッチした。製品版の完成はもう少し先になるそうだが、18クラウンと共通のサスペンション構造なので、開発にそう時間はかからないだろう。そしてタナベのフラッグシップとも言えるエアコブラ。こちらもGS用を開発することはすでに決定済み。GSは、レクサスという世界に通用するブランドものだけに、エアコブラのように乗り心地や利便性、スタイリッシュさなど、何も犠牲にしない魔法の足まわりは必需品。是非ともオートギャラリーに間に合わせて欲しいところだ。またマフラーもタナベが担当。「こちらもワンオフの試作ですが、メダリオンEXEで出す予定です」。

GSは国内販売モデルはスプリングサスのみの設定予定だが「追加でエアサス車が出ても面白いかも」と、純正の足まわりを見つめるタナベの楠田サン。

ELEVEN INTERNATIONAL

TEL.06-6704-7777 http://www.11i.co.jp

# クラッツィオRのリリースに向け 現在シートを型取り中!! ステアリングの開発計画もキャッチ

室内メイクの専門メーカーなだけに、室内の作り込みは相当気になる様子の堀家サン。「LED照明やメタル素材、スイッチの配置なども今までにない感じです」。

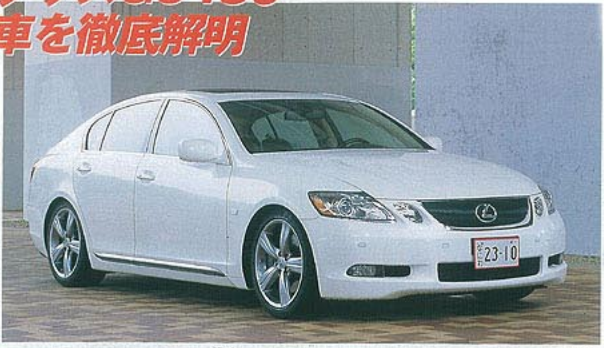
クラッツィオRは高級車専門のシートカバーブランド。ギャザーやステッチなど、凝ったテクニックを駆使して座り心地も抜群。バックポケットの搭載やプラフックによる装着など、機能性にもこだわっている。それでいて3万円台の低価格は驚異的といえる。

高級セダンをターゲットに展開するシートカバーブランド、クラッツィオR。もちろんGS用も開発を進めており、現在はシートの型を取る段階に差し掛かっている。GSのシートは腰のサポートの他、独立したショルダーサポートもあるなどバケットシートに近い複雑な形状を採用。スポーツ走行にも対応した上で、高級感もしっかりと表現したデザインなので、カバーの開発も難航しそうだが「お客さん自身が装着出来なければ意味がないし、フィッティングも妥協出来ない。高い要求ですが、技術力も上がっているので、まず問題なく製作出来ると思います」と自信を覗かせる。

ウッドの質感、ステアの形状にこだわったクラッツィオステアも、GS用に開発中だ。

---

# これがレクサスGS430 ノーマル車を徹底解明



この角度から眺めると、まるでハッチバック車のようなシルエット。16アリストを洗練させた、クルージングマシンと言った雰囲気だ。

**LEXUS GS430**

◆全長×全幅×全高(mm)：4825×1820×1425［RWD］ ◆ホイールベース(mm)：2850 ◆車輌総重量(kg)：1735 ◆駆動方式：FR ◆エンジン：4.3ℓV型8気筒DOHC32バルブVVT-i ◆最高出力：300ps/5600rpm ◆最大トルク：44.9kgm/3400rpm ◆空気抵抗値：0.27 ◆トランスミッション：6段オートマチックトランスミッション(ECT-i) ◆ホイールサイズ：18×8.0Jアルミホイール タイヤサイズ：245/40-18 ◆トランク容量：360ℓ ◆燃料タンク：71ℓ

※スペックはすべて北米モデルのGS430の数値です。

ブリスター形状のリアフェンダーは、テールに絞り込まれる感じでスポーティ。

日本刀のようなサイドのメッキパネルが特徴。リアドアとトランクパネルの短さが良く解る。

ホールド性と言うよりも優しく包んでくれそうなシート。ヒーターとクーラー、両方を内蔵している。

操作性を考えスイッチは機能的に配置。中にはカバーで隠されたものもある。ステアは3本スポーク。

サイドに鋭くまわり込むライトはメッキ付きでクール。

430のブレーキキャリパーはかなりのサイズ。塗装してホイールの隙間から見せるのもあり。

グリルはバンパーツラでなく、少し下側を奥に配置。

クリア感が強いテールはLEDを光源として採用。

フォグは内側に巻き込む形状で、奥に設置し控え目な印象。18マジェのようなHID式もあるか。

## 新生レクサスアイコンをまとったアリストの後継車らしい流麗ボディ

8月末の日本導入に先駆けてデリバリーを開始した北米レクサスGS。そのノーマル車を徹底チェック。

まずは外観。ヘッドライトは16アリストの後継であることを物語る4灯式を採用。スクエア形状にメッキをあしらい、都会的でクールな顔付きになった。フォグは両端の開口部に合わせた薄型を装備。中央の大きな開口部とアンダーへエアを取り込むへこみが、スポーティさを醸し出している。

リアはストンと断ち落とし、ブリスターのようにサイドから巻き込むことで空気抵抗を減らした。最近のトレンドを踏襲。テールランプも16を感じさせるインナーで、それをクリアなレンズで覆う。もちろん光源はLEDだ。サイドはドア下のメッキ付きのパネルが印象的。またGSがパーソナルサルーンであることを証明するかのようなリアドアやトランクの短さも特徴的と言えるだろう。

内装はシート形状が目を惹き、バケットのような包まれ感の高そうなデザインだ。メーターやコンソールに驚きは少ないが、スイッチの数や配置、素材は考えられたもの。頭上のLED照明など、機能とドレスアップ要素を合わせ持ったアイディアもしっかり装備している。

## VIPスタイルは今後も プロジェクトの経過を ガンガン追いかけます!!

2台のレクサスGSをフル回転させ、どこよりも早くフルカスタムしたGSを作り上げるのが「レクサスGSプロジェクト」。今回はその開発者たちに、プロジェクトの立ち上げや、ノーマルGSの印象を伺う事が出来た。さらには乱人の製作中エアロや、レイズの出来たてホヤホヤの新作ホイールなどもスクープ。そして次号。現在急ピッチで進む開発現場から「ほぼ完成版とも言えるエアロ、足回り、それからシートカバーやX503を装着したGSが出来つつある」との情報をキャッチ。その模様を取材して、東京オートギャラリー前に極秘で公開出来そうだ。お楽しみに。